

第1章 少子化の現状

少子化の現状

出生数は、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）以降、一貫して減少している。合計特殊出生率は、第2次ベビーブームを境に、一貫して低下している。平成15年においては、過去最低の1.32（全国1.29）となっている。

愛知県の人口は、昭和30年代以降高度経済成長を背景として大きく増加した。平成16年10月1日現在の愛知県の総人口は、7,205,625人となっている。

国の予測では、平成18年をピークに全国の人口は減少しはじめ、人口減少社会に突入する。愛知県では、同じく国の予測によれば、平成22年にピークを迎え、平成37年には700万人を割り込むと予測されている。

愛知県における婚姻数は、昭和46年をピークとして、その後減少し、平成に入ると増加に転じている。

出生数については、昭和48年をピークとして、その後、一貫して減少傾向にある。

初婚年齢については、夫は昭和50年代後半から、妻は、昭和45年頃から高くなっている。

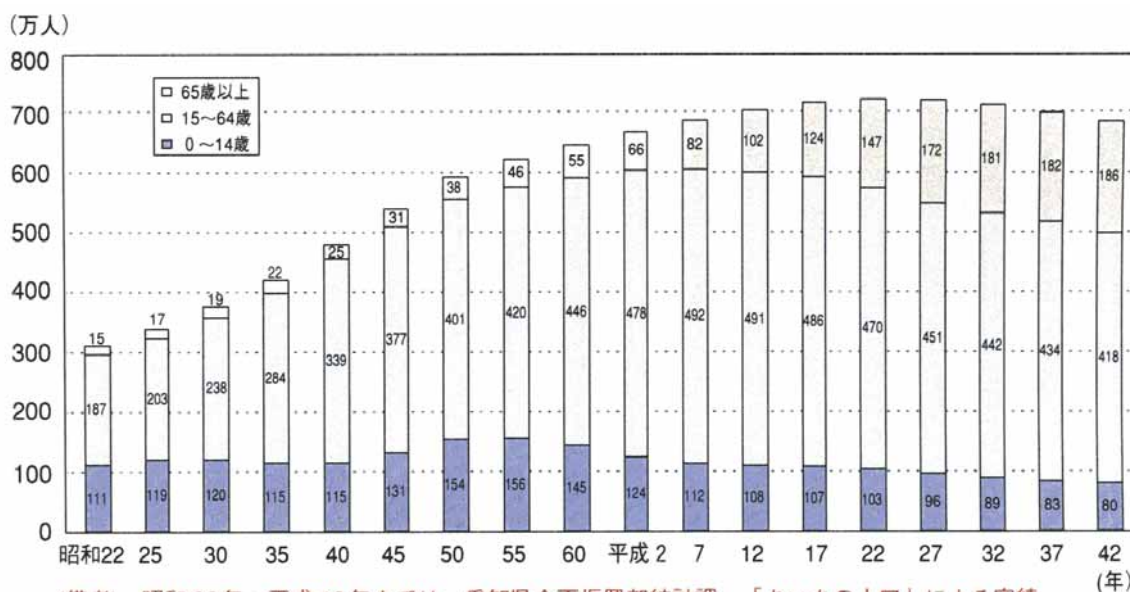
愛知県の人口は、期（昭和35～48年）の高度経済成長期において、自然増加の要因に加え社会増加の要因により大きく増加した。この期間における愛知県の婚姻数、出生数の増加は全国と比べて高い伸びとなっている。

期（昭和49～62年）においては、婚姻数、出生数の減少は全国とほぼ同様の水準となっている。

期（昭和63～平成13年）は、ちょうど期に生まれた子どもが婚姻適齢期を迎える時期と重なり、婚姻数は全国より高い伸びを示している。また、出生数の減少は全国より低い水準となっている。

愛知県では、期における婚姻数と出生数の高い伸びが、現在の出生数の動向にも影響を与えており、出生数の減少を、全国のそれと比べ、低い水準にとどめていると考えられる。

< 愛知県の年齢3区分人口の推移 >



(備考) 昭和22年～平成12年までは、愛知県企画振興部統計課「あいちの人口」による実績
平成17年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」による推計

少子化に対する県民意識

1. 少子化に対する認識

少子化については、ほとんどの人がよく知っていて、経済面での影響を懸念している。

2. 少子化の原因

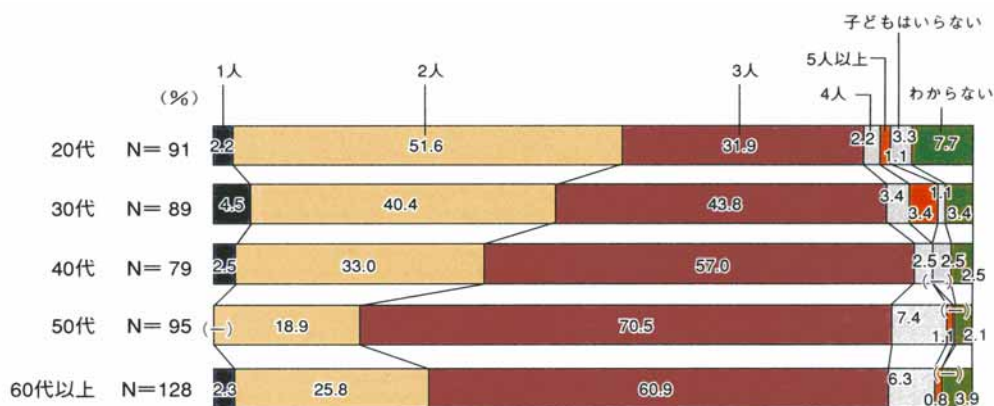
晩婚化の原因については、「女性に経済力がついたから」と回答した人が最も多く、夫婦出生力の低下の原因では、経済的理由に次いで「働く女性が増え、家庭と仕事の両立が困難だから」と回答している人が多くあった。

女性の社会進出に対する社会・産業構造の対応の遅れが、少子化の原因としてうかがえる。

3. 理想の子どもの数

理想の子どもの数については、若い世代ほど「2人以下でよい」と考えており、現状の人口を維持する上で必要な水準2.08と考えあわせると、今後も少子化が進んでいく可能性を示唆している。

<あなたにとって、理想とする子どもの数は何人ですか。(回答は1つ)>
(年代別)



(備考) 資料 「平成16年度第2回県政モニターアンケート報告書 次世代育成支援」

4. 子育ての楽しさ

子育ての楽しさについては、「家族との会話が進むようになった」と回答した人が最も多かった。

5. 子育ての悩み

子育ての悩みについては、教育費や稽古ごとにお金がかかる、しつけや教育の仕方がわからない、子どもの成績や勉強の指導が不安だという子どもの教育に関する悩みをもっている(もっていた)人が多くみられた。